目 次

	頁	(項)
序	vii	(1)
第1章 緒 言	1	(3)
1.1 委員会の歴史	1	(3)
1.2 委員会勧告の発展	1	(6)
1.3 この報告書の目的	3	(10)
1.4 委員会勧告の適用範囲	3	(13)
第2章 放射線防護に用いられる諸量	5	(17)
2.1 緒 言	5	(17)
2.2 基本的な線量計測量	6	(22)
2.2.1 放射線荷重係数	6	(23)
2.2.2 等価線量	6	(24)
2.2.3 組織荷重係数および実効線量	8	(27)
2.3 補助的な線量計測量	11	(33)
2.4 その他の量	12	(37)
第3章 放射線防護の生物学的側面	14	(42)
3.1 緒 言	14	(42)
3.2 電離放射線の生物影響	14	(44)
3.3 損害の概念	15	(47)
3.4 放射線被ばくの影響の定量的推定	17	(52)
3.4.1 確定的影響	17	(54)
3.4.2 被ばくした人における確率的影響	19	(62)
3.4.3 子孫における確率的影響	26	(87)
3.4.4 出生前被ばくの影響	27	(90)
3.5 組織荷重係数	28	(94)

第4章 放射線防護の概念的な枠組み	31	(99)
4.1 基本的な枠組み	31	(99)
4.2 放射線防護体系	34	(112)
4.3 提案された行為と継続している行為における放射線防護	35	(115)
4.3.1 行為の正当化	35	(115)
4.3.2 防護の最適化	36	(117)
4.3.3 個人線量の限度	37	(122)
4.3.4 潜在被ばく	38	(127)
4.4 介入による放射線防護	39	(130)
4.5 防護体系の有効性の評価	40	(132)
第5章 提案された行為と継続している行為に対する防護体系	41	(133)
5.1 被ばくの種類	41	(134)
5.1.1 職業被ばく	41	(134)
5.1.2 医療被ばく	42	(139)
5.1.3 公衆被ばく	43	(140)
5.2 防護体系の適用	43	(141)
5.3 職業被ばくにおける防護体系	43	(144)
5.3.1 職業被ばくにおける防護の最適化	43	(144)
5.3.2 職業被ばくにおける線量限度	44	(147)
5.3.3 女性の職業被ばく	51	(176)
5.4 医療被ばくにおける防護体系	52	(179)
5.4.1 医療被ばくにおける行為の正当化	52	(179)
5.4.2 医療被ばくにおける防護の最適化	52	(180)
5.4.3 医療被ばくにおける線量限度	53	(182)
5.4.4 妊娠中の女性の医療被ばく	53	(184)
5.5 公衆被ばくにおける防護体系	53	(185)
5.5.1 公衆被ばくにおける防護の最適化	54	(186)
5.5.2 公衆被ばくにおける線量限度	54	(188)
5.6 潜在被ばく	57	(195)
5.6.1 行為の正当化	59	(202)
5.6.2 防護の最適化	59	(203)

5.6.3 個人のリスク限度とリスク拘束値	59	(204)
5.7 相互に影響しあう状況	60	(207)
第6章 介入における防護体系	61	(210)
6.1 公衆被ばくにおける介入の基本	61	(211)
6.2 救済措置が必要となりうる状況	62	(215)
6.2.1 住居におけるラドン	62	(216)
6.2.2 過去の事象に起因する放射性の残留物	63	(219)
6.3 事故および緊急時	63	(220)
6.3.1 公衆に影響を及ぼす介入	63	(220)
6.3.2 緊急時における職業被ばくの制限	64	(224)
第7章 委員会勧告の履行	66	(226)
7.1 責任と権限	67	(230)
7.2 委員会の勧告	68	(234)
7.3 規制上の要求	68	(236)
7.3.1 行為の規制	69	(238)
7.3.2 潜在被ばくに関する規制	70	(244)
7.4 管理上の要求	70	(247)
7.4.1 作業場所および作業条件の区分	71	(251)
7.4.2 操業指針	72	(254)
7.4.3 参考レベル	73	(257)
7.4.4 防護と保健に関する職業的サービス	73	(258)
7.5 線量の算定	74	(264)
7.5.1 職業被ばくにおける線量算定	75	(266)
7.5.2 医療被ばくにおける線量算定	76	(272)
7.5.3 公衆被ばくにおける線量算定	77	(273)
7.6 意図した防護基準の順守	77	(276)
7.6.1 記録の保存	78	(277)
7.7 緊急時計画	78	(278)
7.8 規制上の管理からの除外と免除	80	(285)

勧告の要約	82	(S 1)
緒 言	82	(S 1)
放射線防護に用いられる諸量	82	(S 2)
放射線防護の生物学的側面	84	(S 5)
放射線防護の概念的枠組み	86	(S14)
職業被ばくの管理	87	(S21)
医療被ばくの管理	90	(S33)
公衆被ばくの管理	90	(S38)
潜在被ばく	91	(S43)
介入における防護体系	92	(S46)
住居におけるラドン	92	(S47)
事故後の介入	93	(S49)
委員会勧告の実際的履行	93	(S51)
表 S-1 放射線荷重係数	82	
表 S-2 組織荷重係数	83	
表 S-3 確率的影響についての名目確率係数	84	
表 S-4 線量限度の勧告値	88	
表 1 放射線荷重係数	7	
表 2 組織荷重係数	9	
表 3 確率的影響についての名目確率係数	27	
表 4 組織・臓器別名目確率係数	29	
表 5 作業集団の被ばくによる損害の諸属性	46	
表 6 線量限度の勧告値	56	
図 1 中性子に対する放射線荷重係数	8	
図 2 18歳から65歳までの被ばくに対する無条件年死亡確率	48	
付属書A 放射線防護に用いられる諸量	95	
付属書B 電離放射線の生物影響	107	
付属書C 放射線の影響の重要性を判断するための基礎	193	
付属書D 委員会刊行物のリスト	227	